

チャレンジ ～挑戦～



信陵中学校 学校だより

令和 7年 2月18日

第 9 号

文責：校長 青柳 茂宏

教育目標 「自律・協働・挑戦」

「新入生保護者説明会」より

先日の「授業参観・学年懇談会」では大変お世話になりました。また、1月31日には次年度入学予定者対象の「新入生保護者説明会」も開催しました。その中の校長あいさつで、「将来の夢（進路）の実現や目標達成」に向けてたくましく成長していくために身に付けてほしい力として「**自己マネジメント力**」をあげ、子どもの「成長や自律」のために保護者の皆さんと協力しながら、共にその力を育んでいく必要があると話しました。さらに、具体的には「**時間管理（早寝・早起き・朝ごはん）**」、「**礼儀（あいさつ・返事）**」、「**整理整頓や家の手伝い**」、「**家庭学習**」、「**メディアコントロールなど**」が自分でできるよう、「**自主性・主体性**」を育てるかわりを心がけてほしいともお願いをしたところでした。

<生徒総会の様子から>



「自主性」と「主体性」について

そこで、昨年度も学校だよりで同様に紹介をしましたが、今回もこのようによく耳にする「自主性」と「主体性」の違いについて話をいたします。一見同じ意味合いにも思えますが、実はその意味は異なります。この違いを知るだけで、子どもへの接し方も変わってくると思われます。

**「自主性とは」～単純にやるべきことが明確で、
その行動を人に言われなくても率先してやること～**

例)「帰ったら自分で家庭学習を進める」「言われなくとも配付物を親に渡す」など

**「主体性とは」～何をやるかは決まっていなくとも
自分で判断して行動すること～**

例)「なぜ、スマホやゲームの利用時間は守らなくてはいけないんだろう」と考え、「視力低下や睡眠時間の減少などの面で健康にもよくないし、宿題をやる時間もなくなってしまう」などと自分で判断し、「時間を自分で決めて守ろうとする行動がとれる」など



ポイントは、主体性において「なぜこれをするんだろう？」と行動の目的を考えられることです。そして、自分の意思、判断で行動しようとする態度です。まさに、我々が子ども達に身に付けてほしいと願う力です。

では、この主体性はどのように育てていけばよいのでしょうか。「自主性」のないところに「主体性」は育たず、「自主性」があってはじめて「主体性」が育ちます。とかく大人は自主性が育つ前に子どもに主体性を求めがちだと考えます。

子どもの主体性を育てるには根気があるものなのです。急ぐ必要はありません。個人差があっても当然なので人と比べる必要もありません。子どもにとって、一つ「自分でやった」という事実がさらなる自信を生み、確実に次の行動へと結びつきます。



そこで、保護者の皆さんの「大丈夫！」という子どもの可能性を信じた言葉かけと、「いつも見守っているよ！」という後押しで安心感を与えてあげてください。学校としましても、「自律した人間」を育てるべく、今後も教職員一丸となり教育活動を進めてまいります。その努力を共に手を取って続けていくことで、きっと、子どもの「**進路の実現**」や「**将来の夢の実現**」という大きな目標に近づいていくことでしょう。

